



3年生「万引き防止教室」、6年生「情報モラル講習会」を実施

伊勢崎警察署の方を講師に招き、3年生は6月23日（水）に「万引き防止教室」を行いました。万引きは犯罪であり、万引きをしてしまうとどうなるか、そうならないための心構え等を、イラストやロールプレイを交えて学習しました。

また、6年生は6月29日（火）に「情報モラル講習会」を実施。インターネットやSNSは便利な反面、使い方によって多くの危険やトラブルにつながることを身近な事例で説明していただき、「おぜのかみさま」について、動画を視聴しながら1つ1つ確認しました。



「米作り」第2弾、4・5年生が田植えを行いました！

5月に蒔いた籾も大きく成長し立派な苗となりました。雨天が続いたため、予定の日には苗床から伸びた根をそぎ落とす作業を行い、地域協力者の方のお話をうかがった後に、機械植えの様子を見学しました。7月5日（月）に雨の合間を見て、4・5年生で手植えを行いました。子どもたちは恐る恐る田んぼに足を踏み入れ、始めはぎこちなさもありませんでしたが、苗を一つ一つ丁寧に植えていきました。昔ながらの手作業による田植えをしたことは子どもたちにとって貴重な体験であり、主食であるお米の栽培過程を知ることで食育の知識や農業理解も深まったと思います。ご協力いただいた地域協力者の方々、PTA本部役員や保護者の皆様、本当にありがとうございました。



「教育活動に関するアンケート」のご協力ありがとうございました。

例年ご協力いただいている「教育活動に関するアンケート」を、今年度から書面（アンケート用紙の配付と回収）に代えて、児童が持ち帰った各自のパソコンを利用し、インターネットを介して（オンラインでの）実施をしました。7月2日～4日の短期間でしたが、ご回答いただきどうもありがとうございました。結果や分析については、今後お知らせしたいと思います。

教育活動に関するアンケート（保護者用）

このアンケートは、本校の教育活動の改善に活用するために実施するものです。保護者の皆様のご協力をお願いいたします。ご回答いただいた情報は、個人情報は厳重に管理いたします。

※匿名

あなたの子どもさんは何年生ですか？（お子さん1人につき、複数1票です）

1年生
 2年生
 3年生
 4年生
 5年生
 6年生

選択肢から選んで
 チェックを入れる

親として知っておきたい。豊かな心を育てる5つの方法

現在子育てを頑張っている人の中には、「豊かな心」というものをどうやって育てていったらいいのかとわからない。また、なんとかなるだろうと思っている人もいるかもしれませんが、赤ちゃんは真っ白な素材であり、親が与えたものでほぼ過ごすようなものです。成長期から成人にかけて自分を模索し、自分を形成しますが、生きていく上での土台となる心の拠り所(よりどころ)というのは、小さい頃に親が与えたものだったりします。そこで親として知っておきたい豊かな心を育てる5つの方法についてご紹介します。



1. 褒める

豊かな心を育てる時、「褒める」事を忘れてはいけません。この時に気を付けたいのが、何かが出来た時に褒めると「何か出来ない」と褒めてもらえない」という認識を持ってしまうので、自分や子供が既に持っているものに焦点を当てて褒めるという事を実践してみてください。例えば、絵を描くのが上手なら「やっぱり上手だね」「すごいね」と褒めましょう。自分が既に持っているものには、人は焦点が向きにくく、ないものを求めてしまう傾向になります。豊かな心は、自分が既に持っているものに目を向けることから始まりますので、是非自分や子供に向けてそういった訓練を小さいうちからやっておきたいものです。

2. 否定をしない

豊かな心を育てる時、大事な事は「否定をしない」という事です。これは子供に対してだけでなく自分自身にもしてはいけない事です。人に与えることが出来る人というのは、まず自分自身に与えて、しっかりと自分を満たしている人の事をいいます。誰かに豊かな心を与えて育てていきたいのなら、まずは自分自身の豊かな心を育てるようにしましょう。例えば、自分の短所や欠点を自分だけはプラスにとらえて否定しない事だったり、子供が間違っただけの時に頭ごなしに否定をしない事だったりします。小さい頃は善悪の意識がないので「悪い」と思って行動をしません。なので「こうするとこうなるよ」といった言い方をし、なぜ「してはいけないのか」なぜ「ダメ」なのかという事を根気強く教えて行くことが豊かな心を育てる方法の一つでしょう。否定をしないで育てると視野が広い子供に育ちます。自分の事を否定されないから、相手の事も否定しません。なので、いろんな価値観を持った人との交流を図れるような子になるでしょう。きっとユーモア溢れる考え方で自分らしくいることが出来るような人になります。

3. 怒らず応援する

小さい時に沢山怒られたり、否定をされると子供の心は萎縮してしまい、豊かな心とは程遠くなりがちです。きっと子供を怒ってしまう人は、自分が親から怒られて育ったからかもしれません。豊かな心を育てるには「自立」を促し、「応援」する方法が効果的です。なんでも自分でやらせてみて、出来たら褒める。できなかつたらできるまで側にいて応援する。嫌になったら「辞めてもいいよ」と逃げ道を作ってあげる。など、ひとつの苗木が倒れないように土と支柱の役割を果たしてあげると、真っ直ぐ豊かな実りのある木(子供)に育つでしょう。

4. いつも味方である

小さい頃は「親」が絶対であり、心の支えでもあります。豊かな心で育てたいと願うのなら、どんな時も子供の「味方である」という事が大切になります。間違っただけの事でも「いい経験したね」と褒めて、認めて、励ましてあげることで人は自分を許し、他人を許す事ができます。豊かな心が育つと豊かな人を引き寄せます。それは良き友であり、良き恋人であり、将来その人が築く全ての根本となるのでとても大切です。今この話を読んで「そんな風にできなさそうだな」と思った人は、まずは自分自身に向けてそういう言葉をかけ、今までの事を大人になったあなたが許して励ましてあげてみてください。子供をある程度育てた親として、上手く出来なかつたなと思うような節があって、自分を責めてしまっている人は「今」からやり直せばいいこと。きっと子供にもそれが伝わり改善に向かうことでしょ。

5. 本を読み聞かせる

本は、感受性を豊かにし豊かな心を作ります。また、人の痛みが分かる子になります。毎日だけでなく一緒に布団に入って小さいうちから本を読み聞かせると自然と豊かな心が育つでしょう。特に、本はストレス解消にもいいとされていますし、大人になってから読み返してみると心が温まる絵本も沢山あります。絵から与えられる「癒し」というものもありますので、是非自分の力だけではなく、周りの人が生み出した優しさや思いやりを子供や自分に与えてあげることも豊かな心を育てるひとつの方法と言えるでしょう。

いかがでしたでしょうか？子供と言えど自分自身ではありません。自分の子供だからといってなかなか思い通りになる訳などありません。思い通りになると思って行動すれば、思い通りにならないことに悩んでしまう事でしょう。生まれてきたその「生命」そのものを、慈しみ見守るという尊敬の念を常に持ち続け、自分も子供も共に成長していけたらいいですね。

(以前の「南小だより」から再掲)